慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	守護大名大内氏関連和歌短冊集成(稿)
Sub Title	A collection of waka tanzaku (poem-slip) related to the Ouchi clan, a family of shugo daimyo
Author	佐々木, 孝浩(Sasaki, Takahiro)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2015
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.50 (2015.) ,p.99- 143
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	山本英史前文庫長・川上新一郎教授退職記念
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20150000-0099

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

守護大名大内氏関連和歌短冊集成（稿）

佐々木　孝浩

序

日本の古典籍の書写と流動の歴史を考える時、室町という時代が担った役割の大きさを感じずにはいられない。応仁文明の乱を筆頭とする幾多の戦乱とそれに伴う略奪や火災は、無数の書物を亡失させ、それと共に文学に限らないあらゆる分野の作品も多く失われたものと思われる。しかしその一方で、戦いの当事者であった武士達が、公家や僧侶に書写を依頼したり、また自らも筆を執って写したりした書物も、今日まで数多く伝わっているのである。それらによって生きながらえた作品や本文も決して少なくはないはずである。

そうした室町時代に作製された写本の代表的な存在の一つが、所謂「大島本源氏物語」であることは、その学界に与えてきた影響力の大きさからしても疑う余地のないことであろう。拙稿「「大島本源氏物語」に関する書誌学的考察」（『斯道文庫論集』（四一、二〇〇七・二）、補訂稿を『大島本源氏物語の再検討』（和泉書院、二〇〇九）に再掲）で述べたように、たとえその従来の書誌学的認識に大きな誤りがあったとしても、数多ある伝本の中から最善本として選び出されて、利用されてきた歴史は否定のしようはないのである。

「大島本」の書誌学的に正しい認識を求めるためには、その

書写者を明らかにするのが望ましいのであるが、目当てもなく探索を行うことはできないので、ある程度の絞り込みは必要である。「大島本」に存する、大内氏旧臣で同氏滅亡後に毛利氏に仕えていた吉見正頼の、永禄七年（一五六四）奥書の情報などからすると、同本は大内政弘（一四四六～一四九五）旧蔵本の転写本であると考えられ、またその寄合書きの複数の筆跡が、書風から見て公家の手になるものとは考えられないこと等からすると、政弘から正頼までの時代の、大内氏周辺の人物の手になる可能性が高いと思われるのである。

室町時代のある人物の平仮名書きの筆跡を確認するには、基本的に自筆で書かれる和歌会の短冊を探すのが比較的簡単で確実な方法である。ただしそれは公家の場合であって、地方武士でもそれが当て嵌まるのかについては大いに懐疑的であったのであるが、実際に探索を初めて見ると、驚く程に次々と大内氏関係者の和歌短冊の存在が確認できたのである。全国の守護大名家について検討した訳ではないが、その残存量からしても、大内氏関連の短冊は群を抜いていると断言してもよいのではないだろうか。

江戸時代まで存続できた家ならばともかく、室町後期に断絶してしまった家に関連するものが、これほど多く伝わっていることにはただただ驚嘆せざるをえないのである。これは単なる偶然ではなく、纏まって存在していたものが、家の滅亡と運命を共にすることなく、志ある者によって守り伝えられたことによるものと考えてよいであろう。

そのことは、今回の整理の主たる情報源となった、近時国文学研究資料館に所蔵されるところとなった、長府毛利家旧蔵の短冊手鑑『筆陳』に、古筆家初代の了佐が極札を付したものが大量に貼り込まれていることにも明らかであろう。またその札に「中国衆」・「周防山口連歌師」とのみあって、素性を詳らかにできないものが目立つことにも、やはりそれらが一括して伝わったらしいことが窺われるのである。

これに加えて、墨色が薄く独特の癖字であることから判別が容易な、公家の柳原資定（一四九五～一五七八、従一位権大納言、天文十四年（一五四五）～十七年、同十九年頃に山口に滞在）が出題者として題字を記した短冊が、確認できるだけでも二十枚に及んでいることも、回数も不明ながら特定の歌会の短冊が纏めて保存されていたことを推測させもするのである。高名な所謂『慶安手鑑』に模刻されたものも多いこと、古書店の

目録から、屈指の古典籍・古筆コレクター大名であった加賀前田家に多数が伝わっていたことが判明するのも、このような推定を補強するものであろう。

ともかくもこの幸運により、守護大名大内氏関連の和歌短冊は、現在確認しえただけで三百枚近くも存在しているのである。

これだけの情報があれば、「大島本源氏物語」の筆跡研究も本格的に行うことができるのであるが、それだけではあまりにもったいなくも思えるので、この様な集成を作成した次第である。大内氏関係者の筆跡の所在目録として使えるのはもちろんのこと、大内氏の和歌活動や書流の研究など、本集成を活用する方法は様々にあるはずである。

ただし、どのような研究を行うにしても大きな障害となるのが、短冊筆者の特定の問題である。自詠短冊は基本的に署名があるものであり、自筆署名を確認できる点でも貴重な資料であるのだが、滅亡した家とその家臣達のものであるだけに史料も少なく、名前だけで素性を明らかにするのは極めて困難なのである。当時の慣例で、多数の家臣が大内氏歴代の当主から偏諱を賜っているので、「弘・興・隆」字を名の一字目に有する人物がとても多く、候補となりうる同名異人が在する場合が少なくないのである。附属する鑑定書や様々な先行研究などに拠りつつ特定に努めたが、誤りも少なくないものと思われる。また未だ見いだせていない短冊も少なくないはずであり、近時も京都の古書店で販売されたと仄聞している。共々題目に「(稿)」と付した由縁である。この点をご了解いただき、少しでも完成に近づけるように、御教示と御批正を沢山に頂戴できれば幸いである。

《付記》本集成は、稿者が分担者として加わった、国文学研究資料館の基幹研究「日本古典文学における〈中央〉と〈地方〉」(代表寺島恒世教授、平成二十五年度〜二十七年度)及び、オブザーバーとして参加させていただいた、同館共同研究「短冊手鑑の内容と成立に関する研究」(代表中村健太郎(帝京短期大学助教)、平成二十六年度〜二十八年度)による研究成果である。研究会の関係者各位ならびに、資料調査に際し御協力を賜った諸機関と御担当の方々に篤く御礼申し上げる。

【凡例】

一、本集成は後掲「出典略称一覧」に示した資料類を中心に、守護大名大内氏と関係があると思われる和歌短冊の情報を整理して示したものである。採集に当たっては、短冊の署名のみで明らかになるものは多くないので、極札や注記などでそれと判断できるものや、手鑑の配列から推測できるものまで、できるだけ幅広く掬い上げることを心がけた。ために不純なものが混じる可能性のあることを御了解いただきたい。

一、人物の特定にあたっては、附された極札類の情報に加え、左記の資料類を利用して究明に努めたが、確定できなかったり、不明のままとなったものも数多い。また近時の地方史研究の発展は目を見張るものがあるので、最新のインターネットの情報をも信頼性を考慮しつつ参照した。

・米原正義『戦国武士と文芸の研究』（桜楓社、一九七六）

・井上宗雄『中世歌壇史の研究 室町後期』（明治書院、改訂新版一九八七）

・佐伯弘次「大内氏家臣人名事典」（米原正義編『大内義隆のすべて』新人物往来社、一九八八）

・近藤清石『汲古集』「作者目録」（『大内氏実録復刻版』マツノ書店、一九九五）

・『山口市史 史料編 大内文化』（山口市、二〇一〇）

・kawabemasatake「武将系譜辞典 大内家人名録」（約二六五〇名）http://www.geocities.jp/kawabemasatake/

・河村真就「防長将星録」http://masanari.gozaru.jp/shouseiroku/

一、配列については次の様な方法に拠っている。

①先ず、家柄・身分等で分類した。その分類は、大内氏本家・同庶流・三家老家・守護代家・国別国人衆（周防・長門・石見・出雲・安芸・豊前）・分類が難しい武家（「その他」と表示）・氏未詳武士（連歌師が含まれる可能性あり）・連歌師と同朋（武士が含まれる可能性あり）・僧侶・大内関係者か存疑ある者とした。同じ家の内では概ね時代順としたが、一族内での位置付けができない者が多く、必ずしも厳密ではない。家別にできない部分については、名前の五十音順にしてある。人名に続く「（）」内に、判明する範囲で、生没年、幼名・通称・法名など

の別名、官位、特記すべき経歴などを、参考文献や附属する極札などによって掲げた。

②・同一人の短冊が複数ある場合は、概ね四季恋雑の順に並べてある。

一、短冊の翻刻にあたっては、字配りや漢字仮名の書き分けなどについてできるだけ現物と同じにしたが、翻字しか確認できていないものは注意いただきたい（特に『汲古集』の翻字は、確認可能な現物と比較すると、漢字仮名の宛て方が異なることが多い）。歌題は一行のものは二行書の和歌の上部中央にあるが、右行の上部に配してある。翻字資料しか確認できていないものには、明らかな誤読と思われる部分があるが、そのままにしてある。

一、出典の注記については次の略称を用い、極札類があるものについては、その必要な情報を付記した。現物や画像を確認できるものについては、可能な限り極札の記主を明らかにしたが、筆跡鑑定による推定を含むので必ずしも正確ではない。

＊出典略称一覧

仮…山口県立山口図書館蔵『仮御手鑑』（長府毛利家旧蔵か・田村哲夫「山口図書館本『仮御手鑑』について」（『山口県文書館研究紀要』4、一九七五・三）、及び『山口市史 資料編 大内文化』（山口市、二〇一〇）の翻刻より抽出し、現品を確認）＊数字は田村氏翻刻による。

鶴…鶴見大学図書館蔵『古筆手鑑』（久保木秀夫氏御教示による）

汲…『汲古集』（『大内氏実録復刻版』に拠る）

桂…『日本古典文学影印叢刊短冊手鑑』（桂宮家旧蔵）（貴重本刊行会、一九七八）

慶…『御手鑑（慶安手鑑）』（架蔵本による）

杉…山口県立山口博物館蔵手鑑『多々良麻佐古』（「杉文書」の内、東京大学史料編纂所撮影画像による）

思…『思文閣古書資料目録』（数字は号数）

思短…『思文閣古今名家筆蹟短冊目録』（数字は号数）

陳…国文学研究資料館蔵『短冊手鑑筆陳』（長府毛利家・保坂潤治旧蔵）

E…e－短冊.com（思文閣出版）http://e-tanzaku.com/

M…MOA美術館蔵平瀬露香旧蔵短冊帖（『珠玉の書　短冊手鑑の世界』（MOA美術館、二〇〇二）に拠って抽

出し、原品を確認）＊極札はすべて了意のもの。

一、問題のあるものについては随時「＊」記号で注記を付した。

【本文】

《大内氏本家》

▼持世（1394～1441、十二代当主、従四位上修理大夫、新続古今作者）

む　むねのうちに晴しくもりしすむ月を
　みるやいかにとこゝろにそとふ　持世
（眺望集・「大内持世朝臣」、M「正木のかつら」欠、目録）

▼政弘（1446～1495、十四代当主、従四位上左京大夫、贈従三位）

月前鐘　泊瀬山おのへのかねも声やめて
　月に任せよ秋の夜の空　政弘
（慶「同（多々良殿）」、汲・杉子爵家蔵＊拾塵集325）

月照菊　をきまさるしもかとみえて白菊の
　花にさしたる秋の夜の月　政弘
（佐々木勇蔵コレクション短冊優品展Ⅰ）

▼義隆（1507～1551、十六代当主、従二位兵部卿）

社頭霞　春の色は今そみかさの山たかみ
　かけてかすめる峯の松原　義隆
（仮162・了佐札「小槻官務伊治代筆」、汲・毛利子爵家蔵「花のいろは」）

うつしうゑてけふそかひあるもろ人の
　心の花のいろふかみくさ　義隆
（汲・近藤清石蔵）

ほとゝきすそれかあらぬか一こゑは
　雲井にのこるありあけの月　義隆
（米原著書・汲補遺）

夏月　きら〳〵と月の光を紅の
　花にうつせるなてしこの露　義隆
（陳・「大内殿」）

岡紅葉　紅にしくれ〳〵てそめつくす
　色もちしほの岡の梢を　義隆
（慶「大内殿」、汲・慶安四年板手鑑）

見月　独ならぬ秋の憂も月ならて
　むかしのそらの友とやは見む　義隆
（センチュリー文化財団蔵前田家旧蔵短冊手鑑）

月催涙　さして入る寝屋のいたまの月の影も

それも涙のたねにそ有ける　義隆

（汲・周防毛利□□家蔵）

山時雨　定なき習をみせて一とをり
しくるゝ山の雲の遠かた　義隆

（M「正木のかつら」欠・目録）

鷹狩　冬枯のかり場の小野にたつ鳥の
いかにしのはん人目をやおもふ　義隆

（汲・杉子爵家蔵）

今さらにこふともいはし小笹原
しのにものおもふ露のふゆくれ　義隆

（汲・周防福田半仙蔵）

さかならぬ君かうき名をとゝめおきて
世にうらめしき春の浦風　義隆

（汲・長門赤間宮蔵）

惜歳暮　いつの間に今年も暮ぬなにをして
身のいたつらに日を送けん　義隆

（日本書蹟大鑑10）

清　蕨おるならひもよしや山ふかみ
うきにまれなるすみかなりせは　義隆

（M「古今吹満」、眺望集、汲）

海旅　わたの原雲うく浪にかたしきて
月をもむすふかち枕かな　義隆

（思短6・センチュリー文化財団）

月花も都にのみとなかめやりて
おなしくのゐの空をしそおもふ　義隆

（汲・長門矢田為介蔵）

神祇　神かきや豊浦の竹の代々かけて
かはらぬ色のかけたのみ見ん　義隆

（桂）

社頭竹　若枝さす豊浦の竹の代々をへて
この神かきにしけり合けり　義隆

（思短23）

寄神　かみかきやとよ浦の竹のとしことに
祇祝　なかき代かけて契てしかな

（米原著書・天文七年十二月十五日長州三宮（ママ）法楽）

▼義長（1532?〜1557、十七代当主、大友義鑑息、母義興女、初名晴英）

夕春雨　ふかくのみかすむと見えし夕暮の
空よりまかふ春雨そふる　晴英

（杉・〔了珉〕札「大内殿」、汲・毛利子爵家蔵）

暁郭公　まちあかす雲路いつくそ時鳥
たゝ一こゑのあり明の空　義長

（M「正木のかつら・「大内義長」）

嶺月　みねにまつうつろふかけはみかさ山
くもらぬ月のいく秋のそら　義長

（汲・杉子爵家蔵）

禁中月　空のうへのあとかはらすやいまもなを
御はしくもらぬ秋の夜の月　義長

（陳・二代牛庵札「大内八郎」、題資定カ）

▼**晴持**（1524～1543、初名恒持、義隆養嗣子、土佐一条冬房息）

竹鶯　村雨にそのゝくれ竹枝たはに
のとけき空にうくひすをなく　恒持

（思146・「陶恒持」）

遠擣衣　いつくともわかぬきぬたに夢さめて
明かたの空に月わたるみゆ　晴持

（思146・「陶晴持」）

《大内氏庶流》（陶氏を除く）

▼**満景**（六代弘家流詮弘息、修理亮、『相国寺供養記』明徳三年1392登場）

霧　時雨てはみ谷の嵐吹きのほる
霧のたえまや小泊瀬の山　満景

（慶・「多々良殿」、汲・杉子爵家蔵）

▼**満世**（馬場、九代当主弘世息満弘息）

浦雪　いつれとかまことはわかん雪つもる
浦よりをちによするしら浪　満世

（汲・杉子爵家蔵）

【問田氏】（大内介初代盛房息長房流・石見守護代家）

▼**英胤**（大蔵少輔）

遠寺鐘　ゆくへなる雲のはやしのさゆる夜は
あかつきちかき鐘の音つれ　英胤

（汲・杉子爵家蔵）

▼**弘義**（監物太郎、弘包息「系図纂要」）

初雪　しら雲とおもへはあらぬあしひきの
やま風に見るはつ雪のそら　弘義

（汲・杉子爵家蔵）

▼**泰弘**（従五位下左兵衛佐、弘尚息「系図纂要」）

五月雨　晴まなく軒はにしける草の戸の
すまひもさそな五月雨の比　泰弘

（陳・〔了珉〕札「大内殿庶流」）

野鳴　野へちかく我もたひねの寒さより
　ねぬたくひとや鳴のはねかき　泰弘
（汲・杉子爵家蔵）

千鳥　こと〻わむ友ねの千鳥いくとせか
　此浦なみになれも鳴らん　泰弘
（思146・「大内泰弘」）

【野田氏】（問田家分家）

▼興方（兵部少輔、奉行人、問田弘胤息）

冬月　そことなく空もひとつに氷る夜は
　かけさへさゆる山のはの月　興方
（思146・「陶興方」）

▼**隆徳**（兵部少輔、興方息）

故郷　ふるさとの軒のしのふの夕露に
　夕花　みたれてにほふ花のはる風　隆徳
（仮124・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼**隆方**（隆徳息、侍大将并先手衆、汲「加田宮内少輔」、弘治三年1557没）

池杜若　むらさきの色をうつして池水の
　なみのあやおるかきつはたかな　隆方
（汲・杉子爵家蔵）

寝覚　ね覚にはまきの板やにをとつる〻
　時雨　時雨も夜半の友となりぬる　隆方
（慶・「同（内藤殿）」（誤カ）、汲）

冬月　ふるの池のそこもあらはにすむ水の
　こほりにやとる有明の月　隆方
（陳・「大内殿従者」）

【右田氏】（大内介初代盛房弟盛長流）

▼**弘詮**（?～1523、中務少輔・兵庫頭・安房守・従五位下、筑前守護代、陶弘房息、吉川家本『吾妻鏡』旧蔵者）

暮春　くれわたる春の空をしなかむれは
　雲もこえゆく四方の山のは　弘詮
（思146・「大内弘詮」）

▼**弘真**（保盛息）

七夕枕　おもひ思ひて今宵あふ瀬やしきたへの
　枕そ星のなかたちとなる　弘真
（汲・杉子爵家蔵）

▼**興俊**（右京亮、重次息、「永正和歌」作者、杉・門司氏の可能性あり）

雪　冬かれのす〻きおしなみふるま〻に

ぬれてつもれる庭のあは雪　興俊

（汲・杉子爵家蔵）

釈迦　さりし世を思ひそ出る西にむかひ
北をまくらのあかつきの空　興俊

（陳・二代牛庵「右田右衛尉」）

▼**隆康**（?～1551、右馬允、弘詮息、義隆と共に死す）

山家　春秋の色もかはらて山里に
送年　いくとし月をすきふける庵　隆康

（M「広大宝蔵」・「三好隆康」＊配列より判断）

【末武氏】（大内家五代弘貞息弘藤を祖とする）

▼**弘恒**（二代貞盛の息）

早秋　草はまた紐とく花のひともとも
みえぬさきとや秋のはつかせ　弘恒

（M「正木のかつら」・「大内弘恒」）

荻　松にふく音もつけくる秋の色を
ひとりとしほる荻のうは風　弘恒

（思146・「大内弘恒」）

▼**氏久**（?～1471、末武氏五代）

庭葉　色々の木の葉は庭にあらそひて
秋のなかめの残る山里　氏久

（M「正木のかつら」・「大内氏久」）

【冷泉氏】（九代弘世息弘正流、興豊母の生家を家名とす）

▼**隆豊**（?～1551、初名隆祐、興豊息、義隆と共に死す）

故郷梅　さそもかくあれにし里の昔にも
かはらて梅の匂ひける哉　隆豊

（杉・了意札「冷泉判官 大内家従者」・宗久札「冷泉五郎隆豊 大内殿内」）

惜花　名残とてなかむる花も袖の上に
あらそひ落る我か涙かな　隆豊

（M「広大宝蔵」・「冷泉判官隆豊」）

春暁月　心とまる色にあすみて有明の
月出る空に春の山のは　隆豊

（山口の今八幡宮蔵・HP画像に拠る）

暁郭公　ほとゝきす啼つるかたの明かたは
たなひく雲におもかけもなし　隆祐

（汲・或家蔵、「冷泉五郎」）

窓落葉　ちれ木の葉ちらすはいかて窓のうちに
春秋うとき月を見ましや　隆豊

（汲・周防城某蔵）

河雪　白妙に雪のつもれるいせきには
　浪はよすとも色はわかれし　隆豊
（M「広大宝蔵」・「冷泉判官隆豊」）

寒草　時過てかる人なしの村すゝき
　幾重の霜の下にくちなん　隆豊
（陳・二代牛庵札「冷泉判官」）

水郷　なには江や日かけもさむく空くれて
　寒芦　芦のかれ葉に風しほるなり　隆豊
（汲・周防上領頼軌蔵）

野鷹狩　鳥立をは見まれみすまれ飛鷹の
　をしへ草する野へにいそかん　隆豊
（名古屋市個人蔵・HP画像より）

渕水鳥　ゆく水のかたになれてもをし鴨の
　床のちきりはふかきふちかな　隆豊
（汲・周防冷泉助左衛門蔵）

歳暮　人の世にさま〳〵くるゝ歳なれと
　うきはひとつの老とこそなれ　隆豊
（汲・杉子爵家蔵）

古恋　今さらに其いにしへの忍はれて
　そゝろにしほる我たもと哉　隆祐
（杉・了意札「冷泉五郎大内家従者」・宗久札「冷泉五郎隆祐大内殿内」）

旅仲友　うきたひにともなふものは月ひとり
　しをるゝ袖の上にやとして　隆豊
（汲・冷泉助左衛門蔵）

独懐旧　かたるへき友となく〳〵ひとりことに
　そのふむかしを言出かな　隆豊
（汲・杉子爵家蔵）

寄国祝　とよ国の神のまに〳〵年を経て
　かはらぬ竹のよゝをこむらん　隆豊
（汲・周防冷泉助左衛門蔵）

《三家老家》

【陶氏】（大内支流右田家分家、周防守護代家）

▼弘宣（兵部少輔、明徳頃の人）

寄名　おもはすよちきりしことはよしの川
　所恋　はやくも人のかわるへしとは　弘宣
（思146・「大内弘宣」）

▼弘常

花友　やまさくら見るを友とて人も身も
　しらすかたらふ花さかりかな　弘常
（汲・杉子爵家蔵）

▼**隆満**（1497～?、初名持長、兵庫頭・安房守・従五位下、奉行人、三条西実隆他に『源氏物語』書写を依頼）

山花　まかひこし雲もひとつにかさなれる
　たかねの花の春の明ほの　隆満
（M「広大宝蔵」・「陶安房守隆満」）

落花　雲にいる鳥も心やかよふらん
　随風　風にしたかふ花の春とは　持長
（思146・「陶持長」）

関路月　暮るとも影たにとめよ秋の月
　きよみか関路もるかひにせん　隆満
（思146・「陶隆満（持長）」）

嶺紅葉　こきうすきみねの紅葉や山姫の
　そめしこゝろのちくさなるらん　隆満
（汲・杉子爵家蔵）

杣川筏　ゆく水に数やかくらん杣川の
　さほのひまなみくたす筏士　隆満
（陳・〔了佐〕札「陶安房守」、題資定カ）

▼**隆秋**（安房守・兵庫頭、隆満息、汲「九郎・朝倉兵庫頭」）

聞鶯　たますたれあけよとつけてうくひすの
　声を匂をちらすはるかせ　隆秋
（汲・杉子爵家蔵）

月　常よりも秋そてりそふ久堅の
　月のかつらや紅葉しつらむ　隆秋
（陳・了佐札「陶殿」）

湖上雁　松風を翅にかけて夕浪の
　うち出の浜に落る雁かね　隆秋
（思146・「陶隆秋」）

暁眠　鳥の音のきこえぬ山の曙に
　易覚　なか夜はなれてね覚にそしる　隆秋
（慶、汲・或家蔵）

別恋　我のみそあらしと思ふ別路も
　ひとりかうへの歎きならすや　隆秋
（鶴・〔了意〕札「安房守」）

▼**興房**（1475～1539、中務少輔・尾張守、法名道麒、周防守護代、隆房父）

翫梅　かさしおる立枝に匂ふ梅の花
　みなもろ人の袖にみるかな　興房
（『元宝器短冊手鑑』米原著書）

夏草　夏草にましりてしける朝ほらけ
　さゆりさく野、露そ涼しき　興房
（陳・二代牛庵札「陶中務少輔」）

旅　故郷にやかてとおもふたひ衣
　たつ日の空に成にけるかな　道麒
（陳・了佐札「陶殿尾張守入道」）

旧　ふりにけりいく代かはらぬ津の国の
　なからの橋の名のみなからに　道麒
（M「広大宝蔵」・「陶殿尾張守入道道麒」、題資定）

江蛍　ゆく蛍光そゝよく難波江や
　あしの若葉の風にみたれて　興房
（M「広大宝蔵」・「大国薩摩守」＊存義）

▼隆房（1521～1555、晴賢と改名、尾張守、周防守護代、興房息）

田家雨　秋の田のいなはのくもを吹風や
　もらぬ雨きく軒は成らん　隆房
（慶、汲古集・或家蔵、陳・〔了栄〕札「陶尾張守殿」）

岸款冬　影うつる藤江の岸の山ふきは
　はな紫のゆかりにやさく　晴賢
（M「古今吹満」・「陶尾張守晴賢」）

寄月祝　君か世は芸もくもらて久かたの
　としに行めくる月のまに〳〵　晴賢
（『元宝器短冊手鑑』米原著書）

祝　君か世はよむともつきしわたつ海の
　かめの上なるやまと言の葉　隆房
（汲・杉子爵家蔵）

▼興憲（五郎）

月雪のいろこそわかね桜さく
　こすゑにかよふ嶺の夕風　興憲
（思146・「陶興憲」）

月　雲はらふ嵐を空のよすかにて
　山のはいつる月のさやけさ　興憲
（鶴・「五郎」）

筵　てふとりのおのかふしとか山里に
　たてる岩ほのこけのむしろは　興憲
（汲・杉子爵家蔵）

▼**隆憲**

麓柴　行やらて麓の道のしは〳〵も
　おりやわふらん雪の山人　隆憲
（M「広大宝蔵」・「陶隆憲大内家臣」）

▼**忠持**

蘋　うらかれの秋をもしらす古郷に
　池のうき草なに茂るらむ　忠持
（陳・茂入札「陶殿…師為広卿」）

▼**忠尭**（晴賢息、権大僧都、九条政忠息に大僧都忠尭あり）

春月　春よたゝ涙くもらぬ秋ならて
　かすめる夜半の月をみるかな　忠尭
（陳・「陶晴賢子権大僧都」）

【杉氏】（平姓、大内氏分家とも、豊前国守護代家）

▼**重矩**（1495～1551、七郎、初名重信、伯耆守、従五位下、豊前守護代）

卯花　月雪に見しはいつしかそれなから
　なを色きえぬ庭の卯の花　重信
（M「広大宝蔵」・「杉伯耆守重信」）

神楽　庭火たくかけもさたかにふくるよの
　空すみわたるあさくらのこゑ　重矩
（M「広大宝蔵」・「杉伯耆守重信」）

祝　あふくなる君か御かけは久かたの
　空行月もくもりなき世を　重矩
（陳・二代牛庵札「杉伯耆守」）

▼**重輔**（?～1557、伯耆守、重矩息）

氷室　谷ふかみ茂る木かけの氷室もり
　なつなき年をいく世へぬらん　重輔
（仮130・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼**重雄**（天文三年二月二十七日山何百韻作者）

雨後花　あつさ弓よるふる雨はかそいろの
　やしなひたてし花とこそみれ　重雄
（思146・「杉重雄」）

▼**弘依**（孫三郎、木工助、奉行人、頼明息）

湊夕立　あつき日をいとふにふねの□ふきつ
　いそけみなとの夕立の雲　弘依
（思146・「大内弘依」）

▼**興相**（次郎左衛門尉、弘相子・隆相父、三条西実隆に三十六歌仙色紙を所望）

照射　ともしして遠山かけになく鹿の
こゑとまちえしおほろ夜の月　興相
（陳・「杉次郎左衛門尉」）

歳暮　花もみちまちつおしみつくらしきて
いまはかそへん年なみもなし　興相
（思146・「杉興相」）

▼**隆相**（1522～1585、後に元相、次郎左衛門・勘解由判官、興相息、毛利家臣となる）

旅秋夕　かねのおとは古郷なから秋の野に
とまりさためぬつゆのゆふ暮　隆相
（汲・杉子爵家蔵）

爐火　をくすみに残る煙も立消て
しはしそむかふうつみ火のもと　隆相
（思146・「杉隆相」）

行路市　行かへる里もあまたの道野へに
立こそつるれ（ママ）今朝の市人　隆相
（M「広大宝蔵」・「杉勘解由左衛門隆相」）

▼**隆宣**（?～1543、次郎左衛門尉、天文三年二月二七日山何連歌作者）

嶺雪　かはらぬもかはる詠の折なれや
雪にそみねのあけほのゝ山　隆宣
（M「広大宝蔵」・「杉次良左衛門尉隆宣」）

▼**武道**（勘解由左衛門尉、奉行人、重道息・興道・隆相父、文明九年杉重道張行宗祇発句の何船連歌作者）

鶴払霜　なく鶴のうは毛の霜のおきもせす
ねもせぬ夜と猶はらふらん　武道
（汲・杉子爵家蔵）

▼**宗珊（興道）**（初名貞泰、勘解由左衛門尉・美作守、隆泰父、享禄四年宗碩を迎え連歌会を主催、実隆とも交流あり・宗牧に「琵琶行長恨歌」の書写を依頼・「万葉宗祇抄」を所持）

霜　かしけたる色はかはらて霜のうへに
日影そぬるくをのゝさゝ原　興道
（杉・「了栄」）札「大内殿内杉豊後守殿 興道」）

野霰　ぬきとめむ糸はありとも玉霰
みたるゝ小野の茅原さゝ原　興道
（陳・二代牛庵札「杉勘解由左右衛門尉」）

杜雪　行人の袖の嵐にちる雪を
をのれもはらふ衣手のもり　興道
（思146・「杉興道」）

神祇　のこしをくしるしの松にあらはれぬ
君まもるてふ神のめくみは　宗珊
（M「広大宝蔵」・「杉勘解由左衛門宗珊」）

▼**隆泰**（1525～1555、興道息）

鶯馴　またれつるおりしも有し鶯の
こゑを友なる花の下庵　隆泰
（思146・「杉隆泰」）

蚊遣火　あま人のこやのもしほ火たてそふる
煙や夜半のかやりなるらん　隆泰
（思短23）

古砌薄　庭ふりてふりぬまかきの花薄
いく世の秋にたちかへるらむ　隆泰
（思短22）

千鳥　はらひ侘ねさめそしるきさよ千どり
なく音に霜の袖にさえきて　隆泰
（慶、M「広大宝蔵」、汲・或家蔵「隆康」）

▼**隆宗**（天文三年二月二十七日山何連歌、天文六年十月十日筥崎宮法楽和歌作者、吉見氏に隆宗あり＊参照）

橋辺　いは橋の袖のわかれの有明を
帰雁　つはさにかけてかへる雁かね　隆宗
（M「広大宝蔵」・「平賀李頭隆相　題牡丹花」＊存義）

【内藤氏】（北家秀郷流、周防国人、長門守護代家）

▼**隆和**（左馬頭、下野守）

蟬　色にやはときはの森に鳴せみの
こゑのしくれは千しほ成とも　隆和
（陳・二代牛庵札「内藤左馬頭」）

河　水上や花のふゝきになりぬらむ
しらなみよするしかのやま河　隆和
（慶・「内藤殿」、汲・杉子爵家蔵）

橋雨　今も又中たえてけりふる雨の
きりま に見ゆるさのゝふな橋　隆和
（E）

述懐　あきらけき君こそ鏡あふき見ん
身をくもらかす人は有とも　隆和
（M「広大宝蔵」・「内藤下野守隆和」）

▼**宗橘**

霞　山のはゝ雪に晴晴ても出る日の
春立色に先かすみなり　宗橘

（慶「同（内藤殿）」、汲・或家蔵）

▼**隆清**（下野守、左京亮、汲に「沼間左近将監」とあり）

鶯　さへのこる去年のあられの竹の葉に
　きゆる音してうくひすそなく　隆清
（M「つれづれの友」・「内藤蔵人隆清」）

卯花　五月まつかきねのうつ木はなまさて
　雪にまかふる小野のほそ道　隆清
（慶・「題 内藤内蔵助護道」、汲・杉子爵家蔵）

七夕　七夕のわかれをけさの涙にや
　後朝　天の川なみ立まさるらし　隆清
（陳・了佐札「内藤殿」）

初冬　冬きぬとおもひもあへすはれくもり
　時雨　しくれいくたひすきの下庵　隆清
（陳・二代牛庵札「内藤左京亮」）

橋　あまの川ふけ行空は霜さへて
　雲間にわたすかさゝきの橋　隆清
（桂・「内藤下野守」）

▼**護道**（長門守護代正賀息、内蔵助、法名宗悛、宗祇筑紫下向の世話役、兼載『聖廟法楽千句』に加注、歌会の主催などが『下つふさ集』『園草』などに見える、天理図書館蔵三十冊本源氏物語の書写を分担）

蛍　扇もてほたるをさへもうつたへに
　ひとりなかめし夕暮やうき　護道
（M「広大宝蔵」・「内藤内蔵助護道」）

暁　いつよりかあらそひきぬる物ならん
　老のね覚と鳥のはつ音と　宗悛
（M「広大宝蔵」・「内藤内蔵介（ヵ）護道」）

海路　山の端もけふまて見えぬ西の海の
　いり日もいくか漕おくれけん
（汲古集・杉子爵家蔵）

浦千鳥　かつはうき勝間の波にしほれきて
　ひとり千とりの幾世なくらん　護道
（陳・了佐札「大内殿内内藤殿」）

寄挿頭　さしかさす扇にあまる匂ひをや
　恋　行すきかての袖にうつさむ　護道
（E）

▼**隆盛**（内蔵助、石見守護代の問田隆盛（～1555）あり）

杜夏草　むらさきのゆかりの草も茂るやと

尋ねきてみる衣手の森　隆盛

（M「広大宝蔵」・「内藤内蔵助隆盛」）

▼**興盛**（1495～1554、彦太郎、弾正忠・下野守、長門守護代、弘春息、近衛尚通に源氏物語外題を請う）

首夏　立帰る春とや見ましけふははや
夏なる山のやまさくら花　興盛

（M「広大宝蔵」・「内藤下野守興盛」）

冬月　照月のかけや水かみ雲井より
わきかへりちる雪のしらなみ　興盛

（陳・二代牛庵札「内藤下野守」）

▼**隆時**（左近大進、左京進、興盛息、隆世父）

夏草　そらよりもめくみの露の数そへは
ゆく末かけてしけるなてしこ　隆時

（汲・杉子爵家蔵）

待郭公　待侘し程よりも猶一声の
名残はつらき初時鳥　隆時

（陳・二代牛庵札「内藤左京進」）

▼**隆世**（1536～1557、弾正忠、長門守護代、隆時息、大内義長に殉死）

松上藤　あま人にあらねと田この浦まつは
こすゑもかつく花の藤なみ　隆世

（M「広大宝蔵」・「内藤下野守隆世」）

旅恋　おもひくさところせくまてうつしうゑて
なほ露しけき旅の衣手　隆世

（汲・杉子爵家蔵）

▼**其阿**（1618没、内藤隆春息、山口時宗善福寺十一世、明翰抄）

立春を　今日立といへはこゝろにやとり木の
よみ侍　はなさく春のまかふ空かな　心従

（仮30・了栄札「大智庵其阿替名心従」）

翫花　のとかにて見はやす人の心より
はなはなへての世にやさくらん　其阿

（汲・杉子爵家蔵）

散花のみつのまに〳〵とめくれは
山にも春はなく成にけり

（仮85・了栄札「周防山口大智庵」）

【勝間田氏】（内藤家分家、長門国小守護家）

▼**盛治**（左近将監、備前守、矩益息、長門国小守護、内藤隆世陣代）

野鹿　秋かせにこ萩みたるゝ夕露の
野辺や小鹿のふしとなるらむ〔盛〕治

（陳・了佐札「題者柳原殿資定」）

路芝　たひ人のゆくへきかたのしるへとや
すそ野絶々いふるみちしは　盛治

（汲・杉子爵家蔵）

《守護代家》（三家老を除く）

【弘中氏】（清和源氏・鎌倉時代よりの周防岩国領主）

▼**隆兼**　（1511～1555、隆包とも、中務丞・三河守、安芸守護代、興兼息）

原薄　秋さむみ山田の原の夕暮も
うす花すゝきのこる色哉　隆兼

（M「広大宝蔵」・「弘中三河守隆兼」）

▼**賢俊**　（右衛門尉、奉行人、後に毛利家臣）

海月　見るまゝによや更ぬらむ西のうみ
なみより浪に月はうつりて　賢俊

（陳・了佐札「題者柳原殿資定」）

【神代氏】（貞綱が筑前・山城守護代となる、長門国人カ）

▼**通宗**　（三郎太郎）

おそ桜ちらぬためしにさきぬるや
ちとせの春のしるしなるらん　通宗

（汲・杉子爵家蔵）

《周防国人》

【岩正】

▼**興致**　（掃部典・伊豆守、後に毛利家臣、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

紅葉浅　つゆ時雨いとゝふれともやま陰や
もらぬかた枝もうす紅葉して　興致

（汲・杉子爵家蔵「石正掃部」）

冬寒月　影やとる河かせ寒み氷夜も
そらになかるゝ有明の月　興致

（M「広大宝蔵」・「岩正掃部典興致」）

【仁保氏】（桓武平氏三浦氏流）

▼**胤秀**　（右衛門大夫、義隆主催和漢聯句に和句（臨川書店目録23）、天文六年十月十日筥崎宮法楽和歌懐紙に「権少僧都法眼胤秀」、安芸白石氏にも胤秀あり）

早蕨　煙にもたちてやみえん山ふかみ
真柴か下にもゆる早蕨　胤秀

（陳・了佐札「大内殿内文字城主」）

樹陰蟬　夕立のはれ行木々の雫より

すゝしく落る蟬の声哉　胤秀

（桂・「仁保右衛門大夫」、題資定カ）

遠郷　なかめやる尾上のさとにたつ雲の

早秋　ゆふかせ涼し秋の初風　胤秀

（慶・「題　柳原資定」）

河月　名にしおはゝ深行空も河よとに

よとみて月のしはし影みん　胤秀

（M「広大宝蔵」・「仁保右衛門大夫胤秀」）

水鳥　氷とついり江のなみもかたよりに

ゆふされさむきをしかもの声　胤秀

（汲・周防城某蔵、極札「仁保右衛門」）

寄舟雑　すみかとも思ひ知らすは舟の仲に

いかてか海人の月日おくらん　胤秀

（汲・極札「仁保右衛門大夫」、杉子爵家蔵）

▼隆慰（1523?〜1574?、右衛門大夫・常陸介、従五位下、奉行人、後に毛利家臣）

渓霧　ふりはへていかゝわくへき谷ふかき

霧のまかきの柴の下庵　隆慰

（陳・二代牛庵札「仁保常陸介」）

千鳥　戸さしするすまの関守かひもなく

浦つたひゆくさ夜千鳥哉　隆慰

（杉・了佐札「仁保右衛門殿」）

嶋雪　ふりはれて風も音なき浦浪に

遠嶋ちかき雪の明ほの　隆慰

（M「広大宝蔵」・「仁保右衛門大夫隆慰」）

杣冬月　さえわたるみをのそま木の影しろき

月にかたしく袖そこほれる　隆慰

（汲・杉子爵家蔵）

▼道賀（常陸介、法名カ）

久恋　いつとなく心の裏のとし月を

中にたへつゝおもう契そ　道賀

（M「広大宝蔵」・「大内仁保常陸助（ママ）道賀」）

《長門国人》

【阿川氏】（三善姓）

▼真牧（1456〜?、俗名勝康、淡路入道、天文三年二月二十七日山何百韻で脇、京における大内氏の雑掌的役割、三条西実隆と大内関係者を仲介）

旅泊　舩とめて枕さたむる夜へたにも

なみの千里をゆく心ちする　真牧

（慶「阿河淡路守殿」・「題　柳原資定」）

▼盛勝

海路　寒しよの月にこかるゝ海原や
波路はるかに船わたるみゆ　盛勝

（桂・「大内殿内衆」）

【吉田氏】（長門国人カ）

▼興種（？～1569、左兵衛尉・若狭守、奉行人、後毛利氏家臣、大内輝弘に呼応して挙兵し敗死）

野行幸　さはくへき鳥もたゝてやふしつらん
さか野の原のけふの御狩は　興種

（M「広大宝蔵」・「吉田若狭守興種」）

夜燈　老か身はまとろむさへに安からて
ともにそふかすともし火の本　興種

（汲・杉子爵家蔵）

浦松　舩にうき物ともしらて浪かせの
うちそへてふく浦の松か枝　興種

（陳・了佐札「龍崎加賀守」＊存義）

み　みえにけりいつれ野山の隔てとも
わかぬはかりの月雪の影　興種

（M「広大宝蔵」・「吉田若狭守興種」）

【岡部氏】（武蔵七党猪股党支族）

▼隆景（？～1551、右衛門尉、従五位下、興景息、義隆に殉死）

薄露　やまかせにかたよる野辺のいと薄
みたれあひてや露のおくらん　隆景

（汲・杉子爵家蔵）

【三井氏】（長門国人カ）

▼長定

昌蒲　世をいとふ茅か軒端もうち薫り
あやめふくなり今朝のあけほの　長定

（汲・杉子爵家蔵）

【山田氏】（長門一宮大宮司家、本姓賀田）

▼隆貞（兵部大夫）

浦千鳥　すまのうらや月もすむ夜の関の戸の
明かたさむみ千とりなく也　隆貞

（M「古今拾玉」・「長州一宮大宮司隆貞」）

寄藻恋　消やらてしつみやはてん海人の刈る
藻による浪の露のうき身は　隆貞

（汲・杉子爵家蔵）

▼**盛実**（初名隆伊、式部大輔、正四位上、隆貞息）

郭公　みしか夜の見るほともなき月影に
　明ぬとつくるやまほとゝきす　隆伊

（汲・杉子爵家蔵）

関路雲　うこきなくをさまる御代はあふさかの
　関路の雲も君になひかん　隆伊

（汲・長門山田盛実蔵）

▼**盛遠**（永禄七年頃の忌宮神社月次連歌の会衆）

不見恋　うす衣によるのほたるをつゝみても
　つゐにそれとは見えぬおも影　盛遠

（M「古今拾玉」・「長洲一宮大宮司盛遠」）

【青景氏】（北家秀郷流）

▼**隆著**（1514～1556、右京進、越後守、奉行人）

初郭公　それとのみきゝこそそむれ時鳥
　雲のはつかの一ゑの空　隆著

（慶、汲古集・或家蔵）

六月祓　みそきせし川瀬は夏も六月の
　あきちかくなる風そすゝしき　隆著

（陳・二代牛庵札「春景越後守」）

刈萱　そよとさらに露もみたれて刈萱の
　したをれそむる風そ身にしむ　隆著

（汲・杉子爵家蔵）

▼**隆在**（越前守）

九月尽　したはれぬあきの日数の長月も
　名のみはかりの今日のくれかな　隆在

（汲・杉子爵家蔵）

【竹中氏】（長門二宮忌宮神社大宮司家、本姓武内）

▼**弘国**（忌宮大宮司）

松上藤　いつの世か海にて今は山松の
　うれ葉にさきてかゝる藤なみ　弘国

（思149・「竹中弘国」）

▼**興国**（兵庫、弘国息、忌宮大宮司、天文八年杉宗珊所持の「万葉宗祇抄」を書写、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

朝菫　うちなひく霞のひまのあさつゆに
　のをなつかしみすみれ咲かけ　興国

（汲・杉子爵家蔵）

春月　あきらけき御代に出てや春の夜の

月はかすまぬひかりなるらん　興国

（思短4）

春月　かすますはなかむるかたの山のはに
風のうらみやあり明の月　興国

（鶴・了佐札「長州二宮大宮司」）

夜春雨　さひしさの色とは見えぬ春雨を
ねやのしつくの音にたてぬる　興国

（平25古典会・25寛永寺伝来室町期短冊・了栄札）

夏月　木々の色は露もまたひぬ夕立の
空さりけなき夜半の月かけ　興国

（思149・「竹中興国」、架蔵）

秋　うき秋のあはれを袖の露にみる
心は草の陰にしる覧　興国

（M「古今拾玉」・「長州二宮大宮司興国」）

窓前螢　まなひぬるわか身なりせはいかはかり
窓にうれしきほたるならまし　興国

（思149・「竹中興国」、架蔵）

野径鶉　袖にふけさゝ分る野のかけや猶
うつらの床の秋の夕風　興国

（慶・「竹中兵庫殿」、汲・杉子爵家蔵）

落葉　くれなゐのふかき苔路は枝よりも
あたにしちらぬ木の葉とそみる　興国

（M「広大宝蔵」・「竹中兵庫頭興国」）

寄隣恋　あしかきのまちかき中のみるめさへ
かくてほとふるやとのはかなさ　興国

（思短21）

古郷　草枕夢路なたえそふるさとや
よしあさちふはしけりはつとも　興国

（慶・「題同（柳原資定）」、汲・或家蔵）

巌頭苔　仙人やこゝにいはほの苔むしろ
のへし心も代々にかはらて　興国

（思短20）

神祇　榊葉のしけるとよらの宮柱
たちさかゆへきためしをそみる　興国

（桂）

へ夏　へたてこしかひも嵐のすゝしさに
秋まちあへぬ夏ころもかな　興国

（思149・「竹中興国」、架蔵）

せ冬　瀬をはやみさそふ木の葉のしからみや
　くれなゐむすふ氷なるらむ　興国
（思149、架蔵）

旅宿夢　ふるさとやかへる夢ちにをくれしの
　心さきたつ旅ころもかな　興国
（陳・了佐札「二宮大宮司」）

人事　身のうへに世のことはさやしられなん
　さま〳〵なりし人のならひを　隆胤
（慶・＊存義）

＊安芸国人白井隆胤（1543存命）・竜造寺隆胤（後に隆信、1529～1584）あり

▼**隆光**（初名武光、治部大輔、弘国息・興国弟・清国兄、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

惜花　玉すたれ花のかをりの風をたに
　いとひなれたるころにもある哉　武光
（汲・杉子爵家蔵）

夏草　茂り合てなひけはなひく夏草に
　こほれもやらぬ露の夕風　隆光
（M「古今拾玉」・「長洲大宮司」）

浅雪　ゆふあらしふき出す苔の緑より
　つもらぬゆきのしるきやまかな　隆光
（汲・杉子爵家蔵）

▼**清国**（富成姓、摂津守、弘国息・興国隆光弟、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

鵜川　玉嶋やひかりそひ行うかひ火も
　はや明かたの河かみのそら　清国
（桂）

女郎花　たれにけさおき別てか女郎花
　はなのかつらの露みたるらん　清国
（思148・「富成清国」）

橘　古郷のむかしおもへは五月まつ
　花さへ葉さへむつましき哉　清国
（陳・「富成摂津守」）

夏月　みしか夜の月はこなたに明はて、
　うらみなれぬる山のはもなし　清国
（鶴・「了意」札「長州二宮」）

江月　をく露のあしまの月やしつくらん
　しら玉ま白玉江てふ名に　清国

（平25古典会・25寛永寺伝来室町期短冊、了栄札）

径葛　たれをかはうときとて又うらむらん
　わかおひかくすみちのま葛葉　清国
（陳・了珉札「富成摂津守 大内殿従者」）

岡雪　染あかぬしくれやいまは八重つもる
　やしほの岡の雪とみゆらん　清国
（E）

歳暮　めくむ世の春にあはんと山川も
　君によりこむ年の暮かな　清国
（M「古今拾玉」・「長洲大宮司清国」）

懐旧　つく〳〵と身をしる雨のふることを
　かたらひ人にまかせてそきく　清国
（陳・「富城（ママ）摂津守」）

▼**伴国**（従五位下、興国息・隆国兄、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

花　春といはゝまたきよりこそあくかれめ
　花はつねなる色ならなくに　伴国
（M「古今拾玉」・「長洲大宮司伴国」）

残花　露をおもみそゝくわか葉の春雨に
　色かしほるゝ花のおもかけ　伴国
（思149・「竹中伴国」、架蔵）

池辺藤　かけうかふいけの汀のさゝなみに
　みたれぬいろや藤のはなふさ　伴国
（汲・杉子爵家蔵）

氷　あとつくる汀の氷みねの雪
　わけなれぬるも道まとふらん　伴国
（桂）

爐火　あられふる夜のうつみ火いくたひか
　ね覚の床にかきおこすらむ　伴国
（慶・「同　大宮司」、汲・或家蔵）

橋　かつらきや明るかきりの岩はしを
　今かけすつるみねのよこ雲　伴国
（E）

苔　空の色は苔をうつしてみよし野や
　青ねかみねにはるゝしら雲　伴国
（陳・了佐札「二宮大宮司」）

古郷　かりまくらよるの衣はかへさぬを
　思ひねにとふ古郷のゆめ　伴国

（鶴・「長州串崎大宮司」）

▼**直国**（串崎大宮司、天文三年二月二十七日山何連歌等作者）

深雪　昨日までよもきかもとに見し雪の
　軒はにたかきこしのしら山　直国
（M「古今拾玉」・「長州一宮大宮司」）

野霰　布引のたきよりおつるしらたまの
　まなきあられに野辺のなら柴　直国
（汲・杉子爵家蔵）

逢後　あふたひのつらさにかれぬ忍ふ草
　増恋　心のねさしいかにそふらん　猶国
（鶴・「長州串崎大宮司」）

▼**隆国**（隼人、興国息、伴国弟カ）

き春　君か代にあはさらめやは春雨の
　あまねくそゝく草はみなから〔隆国〕
（汲・長門武内国恒蔵）

＊「長門二宮大宮司武内（旧竹中）氏次第」（山口県立文書館近藤文庫）に拠り修訂

朝霞　かすみゆく山もほのかにあけわたり
　うくひすなきて春風そふく　隆国
（汲・杉子爵家蔵）

岸柳　春雨にうちみたれぬる青柳の
　みとりをそふるきしのした水　隆国
（慶・「題　柳原資定」）

郭公　まつ夜は、よしやほと時過ぬとも
　人伝ならて初音きかせよ　隆国
（M「古今拾玉」・「長州一宮大宮司隆国」）

た　たかさこや松も久しき神代より
　さやけき月は秋の夜のそら　隆国
（思短23・了雪他札「隼人正」、架蔵）

武士のやをのしほちにいにしへの
　おも影うかふもしの関山　隆国
（思149・「竹中隆国」）

［　］　三千とせを契り来にけり桃の陰に
　ひろふかひある波の夕なき〔隆国〕
（汲・長門竹内国恒）

＊「長門二宮大宮司武内（旧竹中）氏次第」（山口県立文書館近藤文庫）に拠り修訂

【氏不明】（亀山八幡宮大宮司、清原姓）

▼隆所

暮春　ときはなる松にかゝりて咲藤の
花もちとせの春やへぬらん　隆所
（仮153・了栄札「大内殿内連歌師」）

《石見国人》

【吉見氏】（清和源氏範頼流、石見津和野領主）

▼正頼　（1513～1588、弥七、大蔵大輔・出羽守・三河守、頼興四男、「大島本源氏物語」旧蔵者）

野若菜　けふこゝも千里もおなし若菜つむ
そてはかすみにつたふしら雲　正頼
（汲・杉子爵家蔵）

▼隆宗　（民部少輔、正頼弟の頼貞息、天文三年二月二十七日山何連歌作者、平賀氏に隆宗あり＊参照）

早苗　殖わたす田つらの早苗けさよりも
葉のほる露の色はみゆらん　隆宗
（思148・「吉見隆宗」）

神祇　よろつ代をまもるもふかきこの神の
恵にたえぬあさくらの聲　隆宗
（M「広大宝蔵」・「吉見民部小輔隆宗」）

▼頼郷　（1496～1585、下瀬とも、三郎右衛門尉、奉行人、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

雲間　秋きぬとゆふへあさけにゆきかへる
初雁　雲路にいまそはつ雁のこゑ　頼郷
（汲・杉子爵家蔵）

萩　又や見むこゝもさなから宮城野の
真萩かもとの秋のなかめは　頼郷
（陳・二代牛庵札「田原尾張守」）

▼興滋　（?～1559、源右衛門、備中守、奉行人）

野雪　武蔵野や行来たえつゝふる雪に
みちふみまよふ遠のたひ人　興滋
（仮131・了栄札「大内殿内連歌師」）

【内田氏】

▼頼治

恋　なつころもうすきちきりのことの葉を
ひとへ心に何たのめけん　頼治
（汲・杉子爵家蔵）

【福屋氏】（益田氏庶流）

▼**隆任**（隆兼息）

田家鹿　やまかけやつまとふ鹿のこゑたてゝ
田中の庵にゆめそさめぬる　隆任
（汲・杉子爵家蔵）

伯雪　夕風に苦ひきかけてよる舩や
雪をとまりのあるしなるらん　隆任
（陳・了佐札「中国衆」）

《出雲国人》

【宍道】（宇多源氏、尼子氏一門）

▼**隆慶**（1527～?、尼子氏より大内・毛利氏に仕える）

遠村雪　かきくれてふり積雪に山人の
帰りさまよふをのゝとを里　隆慶
（M「広大宝蔵」・「中国衆隆慶」）

古寺　高野山くもらぬ月のあかつきも
雨にたちそふ軒の松かせ　隆慶
（杉・宗久札「隆景 中国衆」）

《安芸国人》

【天野】（藤原南家工藤氏流）

▼**隆綱**（興定息、厳島合戦には毛利方として出陣）

河　絶せしの富のを川のなかれにや
かみ代くもらぬ月はすむらん　隆綱
（仮133・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼**親重**（平内）

独待月　待人の余所にもあらはたつねはや
わか身ひとつに月やうときと　親重
（M「広大宝蔵」・「天野平内親重」＊存義、配列より）

【尾和氏】（安芸国人カ）

▼**宗親**（佐渡守、文明九年一〇月一三日政弘と連歌に同座）

暮春雨　花鳥にをくれてのこる春とてや
雨もうらみにかすむゆふ暮　宗親
（M「広大宝蔵」・「尾和佐渡守宗親」）

《豊前国人》

【貫氏】（清和源氏新田氏流）

▼**武助**（左衛門佐・越中守・下総守、春助父、奉行人）

河千鳥　深ゆけはいとしもあらき河浪に
声のみこほるさ夜千とり哉　武助
（M「広大宝蔵」・「貫下総守武助」）

歳暮　春をまちことしを惜むもろ人の

こゝろひまなくくるゝころかな　武助

（汲・杉子爵家蔵）

▼**春助**（武助息）

旅雁　すみのほる雲にましりて秋の雁

連雲　月をつはさにみねやこゆらん　春助

（汲古集・杉子爵家蔵）

隣里鶏　ふり敷し雪にあたりの山里も

八こゑのとりも明ほのゝ空　春助

（陳・「同（大内殿従者）」、題資定カ）

そ　そら晴て日影すゝしきをちかたの

みねにのこれる五月雨の雲　春助

（M「広大宝蔵」・「貫春助」）

の　野山さへゆたかに成て春秋の

色もていつる草木なりけり　春助

（陳・「大内殿従者」）

▼**興祐**（備前守）

暁眠　おほつかなむすひもあへすいくたひか

易覚　夢ものこれる有あけの月　興祐

（汲・杉子爵家蔵）

▼**隆助**（下野守）

野若菜　めくむより雪間をわけて朝な〳〵

君にとそつむ野へのわか菜は　隆助

（汲・或家蔵）

【大庭氏】（豊前守護代杉氏に属す）

▼**賢兼**（法名宗文、図書允・加賀守、陶晴賢より賢字を受く、後毛利家臣となる、歌人として名があり毛利時代に源氏・伊勢の諸注集成を編ず）

鶴立洲　影さむき夕日にほすや奥津洲の

なみにぬれたる鶴の毛衣　賢兼

（M「広大宝蔵」・「大庭加賀守賢兼」）

【飯田氏】

▼**興秀**（1506～1557、弥五郎、大炊助・石見守、従五位下、奉行人、武家故実家）

夏月　山の端にまたれしほとも夏の夜の

月のさかりやしのゝめのそら　興秀

（汲・杉子爵家蔵）

擣衣幽　遠方の里一むらにうちすさむ

きぬたは夜半の風にきゑつゝ　興秀

（M「広大宝蔵」・「飯田石見守興秀」）

▼**隆秀**（大炊助、興秀縁者カ、興秀息長秀（～1578）と同一人物の可能性あり）

夕荻　夕暮は軒はの荻をかことにて
音しもたえぬ秋かせそふく　隆秀

（M「広大宝蔵」・「飯田大炊介隆秀」）

▼**秀範**（弥三郎、兵部丞、義隆時代の人）

枕上　冬なからしくるゝ跡に月さえて
時雨　露を玉ぬく草まくら哉　秀範

（M「正木のかつら」・「大内秀範」＊存義）

《その他》

【安倍氏】

▼**長重**（九郎三郎）

泉　岩まゆくなかれに秋やかよふらん
むすふいつみの袖にすゝしき　長重

（汲・杉子爵家蔵）

炭竈　冬枯の木すゑをさむみ降雪の
うちよりけふる小野のすみかま　長重

（仮135・了栄札「大内殿内連歌師」）

寄草恋　さてもわかあふひもしらぬ草枕
しけき涙のつゆのかた敷　長重

（陳・「同（大内殿従者）」）

【高橋氏】

▼**清景**

河辺鳥　なつみ川かは瀬の浪のよる〳〵に
声すみわたり鴨そなくなる　清景

（陳・二代牛庵札「高橋内膳」、題資定カ）

【山口氏】

▼**秀慶**

杣寒月　しろたへの浪もこほりて杣川の
なかれにさむき有明の月　秀慶

（陳・二代牛庵札「山口兵部」）

【山田氏】

▼**興盛**（安房守）

夢　夢なからまことおほかる夢路とて
かたりなくさむ明かたの空　興盛

（M「広大宝蔵」・「山田安房守興成（ママ）」）

五月　さつきやみ香やはかくれん橘の

時鳥　はなのやとゝへやまほとゝきす　興盛
（汲・杉子爵家蔵・「山田安房守」）

五月雨　真木立るこすゑは雲にうつもれて
そことも見えぬ五月雨のそら　興盛
（汲・杉子爵家蔵・「安田修理進」＊存義）

【沼氏】（源姓）

▼興宗（大蔵大輔、天文六年筥崎社法楽和歌作者（福岡市は安富氏とする））

早苗　五月雨に千町の水のゆたかにて
うへぬ早苗もくゆ（ママ）む成けり　興宗
（M「広大宝蔵」・「沼大蔵大輔興宗」）

契恋　数ならぬうき身としらはいかてかは
この世はかりにうらみしもせん　興宗
（陳・二代牛庵札「沼大蔵大輔」・題資定カ）

▼興勝（能登守、永正和歌作者、天文三年二月二十七日山何連歌作者）

郭公　去年きくもおなし雲ゐにたち花の
軒はにかほる山ほとゝきす　興勝
（思148）

新樹風　はなにのみいとひし風の名残とて
音吹そへし夏木立かな　興勝
（M「広大宝蔵」・「沼能登守興勝」）

薄　垣　こめし里ははるけき色見えて
たゝひとへたつ夕へふりかな　興勝
（思148）

谷雪　分てしもつもるともなきいろならん
あさきもふかき谷のした雪　興勝
（汲・杉子爵家蔵）

▼興繁

清　水上のとをきなかれやをのつから
月もくまなき影やとす覧　興繁
（思148）

【沼間氏】

▼敦定（備前守、奉行人、天文三年二月二十七日山何連歌作者「―朝臣」、実隆公記（永正五年九月十九日条）に名が見える）

沢若菜　下もえの野沢の水の煙にそ
つまむ若菜の跡そしらるゝ　敦定
（仮138・了栄札「大内殿内連歌師」）

帰雁　つれなくも雁かへるなりとゝめえぬ

なこりに残るありあけの月　敦定

（汲・杉子爵家蔵）

雪　さえ〳〵しあらしも松もうつもれて
ひとりさひしき雪おれのこゑ　敦定

（桂）

雪　ふりつみし雪より明て三吉野や
花にそにほふ木々のこすゑは　敦定

（陳・「同（大内殿従者）」）

清　いわし水世ゝにたえせぬなかれにや
君かこゝろもひとしかるらん　敦定

（慶、M「言葉露」・「大内連歌師 敦定」、汲・或家蔵）

【小野氏】

▼幾柏

神祇　あふくなる道もしるしや神の名の
猶いや高き君か代すらは　幾柏

（陳・「大内氏従者小野」）

【川瀬氏】

▼安松

蚊遣火　くれ竹のはひり（ママ）の小屋の人そ先
けふりにむせふかやり火のかけ　安松

（汲・杉子爵家蔵）

【相良氏】（藤原南家流）

▼正継（遠江守、正任武任父子の縁者カ）

吉重公／御返事／御詠一枚／まことに〳〵／忝こと満々
手折つる人の心のふかさをも
色香にみする露のしら菊　正継

（慶、汲・或家蔵）

▼弘経（或いは内藤カ、他に大内庶流の鷲頭弘経あり）

尋花　み吉野の山ちふみ分尋ゆく
こゝろのおくを花やしるらん　弘経

（M「広大宝蔵」・「相良弘経」＊存義）

▼正任（遠江守、武任父、政弘側近、新撰菟玖波集作者）

鹿声遙　幾重かはおもひいりぬる谷みねも
おくなき山のさをしかのこゑ　正任

（センチュリー文化財団蔵前田家旧蔵短冊手鑑）

霜夜月　袖のうへの露よりなれしかけもなし
霜夜のとこのありあけの月　正任

（汲・杉子爵家蔵）

奉尊霊　なれこしはいつのうつゝに杉の窓の
あくるみしかき夢の面影　正任
（M「広大宝蔵」・「相良遠江守正任」）

▼正全
夢後　ゆくかたはかすかにきこゆ見し夢の
郭公　おもかけつるゝ郭公かな　正全
（汲・杉子爵家蔵）

▼武益
嶺花　しら雲のかゝるたかねははるかせに
匂ふや花のしるへなるらん　武益
（汲・杉子爵家蔵）

【大国氏】

▼長俊
恋槙（に）　にこりえやたのむめくみの袖の雨に
槙の下葉も色やかはらん　長俊
（M「広大宝蔵」・「大国長俊 大内従者」）

【大田氏】

▼隆通（隠岐守、義隆近習で共に死す、同年に殉死した矢田隆通あり）
旅宿　うらなれて幾夜あかしの旅の宿に
重夜　とまるや道の関し成らむ　隆通
（仮144・了栄札「大内殿内連歌師」）

【町氏】

▼隆祐（掃部）
新樹　はるすきて四方の梢はなへてはや
わか菜なからにしけるなつ山　隆祐
（汲・杉子爵家蔵、「町掃部」）

恨恋　はかなしやかはかりつらき心をも
見はてゝもまた頼みこそすれ　隆祐
（汲・周防上領頼軌蔵）

【町野氏】

▼隆治（?～1555、相模守、隆親息）
蚊遣火　夏の日のあつさわするゝ夕とも
しらすやいかに蚊遣火の影　隆治
（仮141・了栄札「大内殿内連歌師」）

【田原氏】

▼頼允（長十郎、宗祇弟子）
花　山たかみ霞にこめてさく花の
ありとや風の空にゝほへる　頼允

（仮136・了栄札「大内殿内連歌師」）

郭公　鳴きすて〻行かたいつくと計に
　き〻こそあへね山ほと〻きす　頼允

（M「言葉露」・「大内連歌師 頼允」）

七夕糸　七夕の天の川瀬の秋にふく
　風もしらへの糸竹の声　頼允

（陳・了佐札「山口連歌師宗祇弟子」）

不逢恋　誰うきにかこちかなさん数ならぬ
　身はうたかたの泡ときゆとも　頼允

（汲・杉子爵家蔵）

【保田氏】

▼興勢（修理進）

椎柴　雲霧をはらひつくして夜嵐の
　音吹のこるみねの椎柴　興勢

（陳・二代牛庵札「保田修理進」）

爐火　いく度かかきをこすらむなかき夜の
　ねさめさむけきうつみ火の本

（陳・了佐札「中国衆」）

【豊田氏】

▼隆幸（次郎兵衛）

秋露　花にそむ露こそあらめいかにして
　なみたも袖に秋をしるらん　隆幸

（仮142・了栄札「大内殿内連歌師」）

山鹿　をくら山みねの朝霧たちならし
　おもひやはれぬさをしかのこゑ　隆幸

（汲・杉子爵家蔵）

《氏未詳武士》

▼安栄

月　海遠みさし出る月のしろたへに
　光もみてる波の上かな　安栄

（M「広大宝蔵」・「中国衆安栄」）

神祇　あふき見る千とせのかけやをのつから
　こと葉の花のすみよしの松　安栄

（陳・了佐札「中国衆」）

▼家治

いはひ　かきりなき二葉のまつのすゑかけて
　つきしとそ思ふことのはの道　家治

（陳・「中国衆」）

▼義尋

時雨過　松たかみたえぬあらしは雲はれて
みねの時雨のいつかすきけん　義尋

（汲・或家蔵「大内殿」）

▼賢継

時雨雲　おほ空の雲のけしきも見るかうちに
かはりて又や時雨ゆくらむ　賢継

（陳・了佐札「題者資定」）

▼顕済

谷風　月残る尾上のあらし吹おちて
木々にこゑすむ谷の下庵　顕済

（陳・「中国衆」）

▼恒枝

立春　いつる日の影も長閑にあら玉の
春の光はけさよりそみる　恒枝

（陳・了佐札「中国衆」）

▼康道

山落葉　ふもとよりまたふきのほる山風に
ちりてののちもちる紅葉かな　康道

（汲・杉子爵家蔵）

▼宗弘

河紅葉　音羽川おとせぬ□になりにけり
おち葉しからむたきのしら波

（汲・杉子爵家蔵）

▼続亮

寒蘆　釣人のこゝろしられて一むらの
あし分小舟雪にさはらぬ　続亮

（陳・了佐札「中国衆」）

▼祐雄

朝花　時しもあれかすみて月も有明の
木すゑに残る花の朝かけ　祐雄

（陳・「同（大内殿従者）」・資定題カ）

《連歌師・同朋》

▼家居

鵜川　月をそき鵜川の岸の夢の波に
船さしいたす袖や涼しき　家居

（仮123・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼可弁

朝霜　冬かれのをさゝのうへにおく霜の
夜さむしらるゝ明ほのゝそら　可弁
（汲・杉子爵家蔵）

▼吉阿

夢後雁　夢さむる床に枕をそはたてゝ
きけはみねより落る雁かね　吉阿
（陳・了佐札「義隆公同朋」）

霰　むら竹のうちなひきたる窓のまへに
ふるをとたかき玉あられかな　吉阿
（仮156・了栄札「大内殿御同朋」）

山家　かさなれる山のかひより立けふり
かへる家ちの程そしらるゝ　吉阿
（陳・二代牛庵札「大内義隆童坊（ママ）」）

▼久直

草花　秋風にかつみたれつゝ咲はなの
にほひもふかき野への夕露　久直
（陳・了佐札「題者柳原殿資定」）

▼玄海

月　老となるものとて月をみぬ人の
千世の秋をはいかゝすくさむ　玄海
（陳・「同（大内殿従者）」）

▼源旧

卯花　春のよのあくる垣ねの村消に
今朝しもまかふうの花の雪　源旧
（M「言葉露」・「大内連歌師　源旧」）

待七夕　いつしかとさそなまつらん鵲の
かはすつはさのおそきゆふへを　源旧
（汲・杉子爵家蔵）

春駒　この比は野へのみとりに打出て
冬籠せし駒いはふなり　源旧
（陳・了佐札「中国衆」）

▼玄作

（天文三年二月二十七日山何連歌作者、宗碩弟子、明翰抄）

紅葉　をのつから手向の山と成なゝん
この神かきの庭の紅葉ゝ　玄作
（陳・二代牛庵札「周防山口連歌師」）

曙鳴　しきのたつはねおとさむき沢みつに
山の端ひたす月のあけほの　玄作
（汲・杉子爵家蔵）

歳暮　年こえて花鶯はさもあらはあれ
おしまさらめやけふの夕暮　玄作
（仮118・了栄札「周防山口連歌師」）

餞別　出て行わかれをおもふさかつきに
都しまへもうかふなりけり　玄作
（陳・了佐札「連歌師宗碩弟子」）

路苔　吉野山木末の春は夢なから
苔にわけこし跡はありけり　玄作
（M「言葉露」・「連歌師 玄作」）

▼儼智（天文三年二月二十七日山何連歌作者）

萬台のみたりの松も十かへりの
花のかにほふ梅の下風　儼智
（慶・「大内殿」、汲・或家蔵）

郭公　やよやまて山ほとゝきす鳴すてゝ
跡に心は有あけの月　儼智
（M「言葉露」・「大内連歌師 儼智」）

荻破夢　さらてたに夢のゆくへのあたなるを
さそふもはかる荻のうは風　儼智
（汲・杉子爵家蔵）

鷹狩　かりくらす日かけも鳥もおちくさに
帰るさわかてしたふかり人　儼智
（汲・周防某蔵）

時雨　この比はしくれかちなる四方の空に
またそめやらぬ木々の紅葉々　儼智
（仮150・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼光円

窓竹　鶯のやとりもとらは窓になを
うへやそへまし竹の一むら　光円
（M「言葉露」・「連歌師 光円」＊存義、配列より）

▼興基

春田雨　岩そゝく水もたえく春雨の
ふりにしさとや小田かへすらん　興基
（仮125・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼興時

速　あつさ弓いるとも見えすとしの矢の
かすの月日の移るほとなさ　興時
（汲・杉子爵家蔵）

▼興式

忙　けふあすに暮ぬる年をみな人も
おなし心の色や見ゆらん　興式
（仮152・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼孝順

夜帰雁　こし路へといそく心そしられける
夜ふかき月にかへる雁かね　孝順
（仮132・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼孝純

冬恋　そての露まくらの氷さえさえて
ねぬ夜のとこにひとりかたしき　孝純
（汲・杉子爵家蔵）

▼光成

故郷鶯　みよし野や雪のふる里道絶て
春は跡あるうくひすの声　光成
（仮146・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼洪仙

（宗祇門弟、宗祇伊勢物語聞書を著す、明翰抄）

花　色も香もたとへかたしな花といゝは
さくらよりけに何をかはみむ　供仙
（陳・二代牛庵札「周防山口連歌師」）

款冬　ふゆの名をいふそあやしき山吹の
花はにほひにしるき春風　洪仙
（仮119・了栄札「周防山口連歌師」）

旅宿虫　こえ暮てやとるふもとの虫の音に
うきをなくさの山のかりふし　洪仙
（M「言葉露」・「周防山口洪仙」）

▼興村

五月　はれ行か吹方かはる夕風の
雨晴　雲間は月の五月雨の色　興村
（仮154・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼行〔僧〕

炭竈　ふる雪のさむさをいそく炭竈の
けふりをかすむ春にまかへて　行〔僧〕
（陳・了佐札「中国衆」）

▼在雄

夢　ほともなくはや明わたる鳥のこゑに
おとろく夢の名こりをそ思ふ　在雄
（陳・「同（大内殿従者）」）

▼秀満

夕霧　嶺高みいさよふ雲をたよりにて
たなひきつゝく夕霧の影　秀満
（仮148・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼順賢

春曙雁　さらぬたになかめたえなる春のよに
かりなきわたるあけほのゝ空　順賢
（M「つれづれの友」・「大内連歌師 順賢」）

郭公　鳴すてゝいつく行らん時鳥
そことも分ぬ夜半の一聲　順賢
（桂）

霜　旅衣けさたつ野への草枕
かゝる霜には夢もむすはす　順賢
（陳・了佐札「中国衆」）

夢　あたし世とおもひなからもかき曇る
やみのうつゝの夢をしそおもふ　順賢
（仮147・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼承良

松雪　白妙にふりこそつもれ岡の辺の
松をはなかと雪の明ほの　承良
（仮126・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼盛可

初萩　はるは見しはつ花よりも秋の野に
つゆみたれたる萩のうはかせ　盛可
（汲・杉子爵家蔵）

▼盛空

池月　月のかけなみのひかりもひろ沢の
いけのいつくも秋やくまなき　盛空
（汲・杉子爵家蔵）

▼晴祐

喚子鳥　よし野山かすみかくれのよふこ鳥
たつねも見はや花のよすかに　晴祐
（汲・杉子爵家蔵）

▼善弘

蛍知夜　夜なくのあしの葉風にすむ秋を
そよとしらせてとふ蛍かな　善弘
（杉・宗久札「善弘 中国衆」）

夕虫　夕まくれ露はいとはし虫のこゑの
ちかき霜夜をうらみとやなく　善弘

（仮151・了栄札「大内殿内連歌師」）

夜鹿　小倉山しくるゝ頃のなかき夜を
あかしかねてやしかのなくらん　善弘
（汲・杉子爵家蔵）

夜神楽　庭火焼影くもりなく君か代を
いくとせかけてうたふ榊葉　善弘
（M「つれづれの友」・「大内連歌師 善弘」）

▼仙祐

山雪　名にしおはゝ桜の山のあさ雪の
しはしなきえそはなのさくまて　仙祐
（汲・杉子爵家蔵）

▼宗可（明翰抄）

梅薫風　手枕のすきまふくともいかにせん
梅かゝをくる庭の春風　宗可
（陳・二代牛庵札「周防山口連歌師」）

梅欲散　鶯の羽かせはちらせちるとても
うつろふ梅の色とやはみん　宗可
（仮128・了栄札「周防山口連歌師」）

寄柏恋　たのめつる人は軒端のむらかしは
そよとも風のをとそ身にしむ　宗可
（慶、汲・杉子爵家蔵）

山家　山里はおとろかかきほかたふきて
こゝろのむくらみちうつむなり　宗可
（陳・了佐札「周防山口連歌師」）

▼宗珈

寄雨恋　つく〳〵と身をしる雨に袖の上も
うちしめりたる秋のともし火　宗珈
（桂）

▼宗江

海辺　ゆくすゑのかきりもいつとしら雪の
松雪　いく世ふりにし住吉のまつ　宗江
（汲・杉子爵家蔵）

▼宗漸（宗碩門弟、明翰抄）

田家鳥　鵙のなく門田のくろの朝日影
よそにうつろふ村雀かな　宗漸
（仮120・了栄札「周防山口連歌師」）

▼宗栢

祈恋　祈るかひあひ見るまてときふね河

岩こすなみを袖にかけつゝ　宗栢

（陳・了佐札「大内殿内連歌師」・題資定カ）

▼**宗甫**（西川、〔享禄四年〕杉興道張行宗碩発句何人連歌、天文三年二月二十七日山何連歌等作者）

河霧　はらへ風五十鈴の川に今も又
　たつや神代の御霧なるらむ　宗甫

（陳・二代牛庵札「西川」）

田家　竹の葉と田中のいほやこもるらむ
　ふるす尋ぬるつはめとひかふ　宗甫

（M「言葉露」・「安達宗甫」＊存義）

▼**智阿**（天文三年二月二十七日山何連歌作者）

五月雨　一とせの雨のさかりは五月そと
　いついひそめてしのにふるらん　智阿

（汲・杉子爵家蔵）

雪　千里まて詠そかはる朝ほらけ
　山もをしなみ木々の白雪　智阿

（桂）

▼**定珪**（明翰抄）

山家　山ふかきかすみのおくの松の戸に
　春月　それとはかりの春の夜の月　定珪

（陳・了佐札「周防山口連歌師」）

岡紅葉　蔦かつら染ししくれはかた岡の
　松にもかゝる色をみせけり　定珪

（仮127・了栄札「周防山口連歌師」）

雪　わか分し岩のかけちもうつもれて
　とはれぬ跡に積るしら雪　定珪

（陳・了佐札「山口之連歌師」）

水路氷　かせさむみとつる氷もからさきや
　こきゆく船のあとのさゝなみ　定珪

（汲・杉子爵家蔵）

潤水　くみてしる人そ稀なる世中に
　のかれすむてふ潤のした水　定珪

（陳・二代牛庵札「周防山口連歌師」・題資定カ）

寄海恋　いつまてか身はうき浪に行ふねの
　こかれて物をおもひわたらん　定珪

（M「言葉露」・「連歌師 定珪」）

▼**任源**（天文三年二月二十七日山何連歌作者、明翰抄）

子日　君かため野への小松を引し人は

いく千世ふへき春のためしそ　任源

（陳・了佐札「中国衆」）

女郎花　むすひつる露やうらみん女郎花
枕さためすなひく秋かせ　任源

（仮129・了栄札「周防山口連歌師」）

初鴈　はつ鴈のね覚の窓に声をちて
月を枕に有明のそら　任源

（慶・「同（竹中隼人殿）」は誤り）

夢　つれなくてたか夢さへかさめぬらん
あられみたれて月さむき空　任源

（汲・杉子爵家蔵）

▼武之

旅泊夢　うき枕したふもしらすとまり船
夢はとまらてかへる浪哉　武之

（仮122・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼武将

浜帰雁　立帰り浪とともにそゆく雁の
春のはま辺に名残をそ思ふ　武将

（仮139・了栄札「大内殿内連歌師」）

露浅　草の原をく露あさき明更は
夜半にあらしの吹みたるらん　武将

（陳・了佐札「中国衆」）

▼保平

惜月　すむ月のみほのうら波たちかへり
したふひかりの明るほとなさ　保平

（汲・杉子爵家蔵）

▼明源

故郷霞　さくらさくなからの山に来てみれは
ふりにし志賀の霞ぬる哉　明源

（仮134・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼弥了

埋火　しきたへの枕さえたる暁に
たのめはすこしぬるむ埋火　弥了

（仮149・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼祐恵

忙　十かえりの松よりこゆる老のなみ
たゆむ間もなくゆく年のくれ　祐恵

（汲・杉子爵家蔵）

▼柳庵

紅葉霜　露時雨千しほにそむる紅葉はの
くれなゐうすくをける霜かな　柳庵
（仮155・了栄札「大内殿御同朋」）

▼隆辰

庭荻　秋のかせちきりし庭の宿からに
つゆは結す軒の下おき　隆辰
（仮143・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼隆勝（備中村上水軍に隆勝あり）

夏月　よひのまに入ぬる夏の月影は
山のはつらき心とをしれ　隆勝
（仮137・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼隆善

不逢恋　日数へておもへはよるの夢にさへ
それとも見えぬ君か面かけ　隆善
（仮121・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼隆毎（天文三年二月二十七日山何連歌作者）

夕立　いつのまにはやくすきゆく夕立の
すゝしく見ゆる雲のひとむら　隆毎
（汲・杉子爵家蔵）

谷雪　ふみ分る人としもなく白妙の
雪のみうつむ谷のほそ道　隆毎
（仮145・了栄札「大内殿内連歌師」）

《僧侶》

▼胤秀（権少僧都・法眼・権僧正、玉泉院、万里小路秀房息、惟房弟、周防住、天文六年筥崎宮法楽和歌作者）

遠郷　なかめやる尾上のさとにたつ雲の
早秋　ふゆかけすゝし秋のはつかせ　胤秀
（汲・或家蔵）

▼快雅

寄松祝　おひ立ていく枝茂るや千代の松
みな祝言に友なひそゆく　快雅
（仮161・了栄札「周防山口条福寺快雅」（ママ乗方））

▼尭淵（皆明寺権僧正法印、下冷泉政為息、山口住、天文六年筥崎宮法楽和歌作者）

夏草　すゝしさのなかれも見えすなつ草の
埋庭　しけみかしたの庭のやり水　尭淵
（汲・杉子爵家蔵）

▼春誉（大智庵長老）

坂暮春　来にけりと詠し春もみよし野、
山よりやまに又帰るなり　春誉
（慶「同（大内殿）」、汲・杉子爵家蔵・題資定カ）

絶恋　いかにせむ樋の水の絶々も
かけてたのまむ中ならはこそ　春誉
（陳・了佐札「周防山口之長老」）

暁　しつかなる心を窓のたよりにて
学ふみちしや暁ならし　春誉
（仮158・了栄札「周防山口神宮寺長老」）

▼日誓（山口法華宗本圀寺カ）

牧春駒　みちのくや野くれ山くれ春かすみ
こゝろひかるゝ牧のあら駒　日誓
（仮159・了栄札「山口住」）

▼弥阿

郭公　ほとゝきす有明の月の一声に
こゝろのゆかぬ山端もなし　弥阿
（仮160・了栄札「成満寺」）

▼宥任（神光寺）

春雨　幾たひか袖にふりけんかり衣
春の夕の雨の名こりを　宥任
（仮140・了栄札「大内殿内連歌師」）

▼良雄（山口天台宗興隆寺大坊カ）

山花　待えてし春にまつさく花やあると
たつねそいりしみよし野のおく　良雄
（陳・「同（大内殿従者）」・題資定カ）

朝更衣　おりしありと今朝たちかへてうす衣
ひとへに夏の色やみすらん　良雄
（仮157・了栄札「周防山口住大守坊」）

《大内関係者か存義》

▼印政（永正～大永比都で活動した連歌師がおり、尼子氏とも縁あり）

水郷　雨もよにまたわかこものあさみとり
春雨　みたれてかすむ淀の川なみ　印政
（陳・「中国衆」）

▼景範（山井氏、大神姓、京楽人、天文六年筥崎宮法楽和歌作者「従四位下行安芸守」）

洲鶴　浜松のすさきにたてるしら鶴は
しらすいく代の春をへぬらん　景範

（陳・「中国衆」）

▼兼盛（弘治～元亀比に島津氏の連歌会に参加した兼盛あり）

河款冬　山吹のうつりにけりな水かくれに
なひく玉裳の花とみるまて　兼盛

（陳・「中国衆」）

▼宏如

人伝恋　つれなしと恨やはてむわか思ふ
かきりを人のつたへさりせは　宏如

（陳・「中国衆」）

▼珠長（永禄～天正比に島津氏の連歌会に参加した珠長あり）

互忍恋　もらすなよゆくゑはつゐにかはるとも
かひなき名をはひとりやはたつ　珠長

（陳・「中国衆」）

▼守有

契久恋　さすかよもわすれはせしと契りしを
たのむはかりにすくるとし月　守有

（陳・「中国衆」）

▼周葉（宗牧同宿の連歌師カ）

浅始恋　身にかくてたへぬ思ひや秋風に
たなひく雲のよはの月影　周葉

（陳・「中国衆」）

▼聟

共偽恋　夕くれの空めにほふ花の色や
君かこゝろの峯のしら雲　聟

（陳・「中国衆」）

▼道悦（紹巴周辺の連歌師カ、定家様）

古寺鶯　あか結ふ深山かくれをおき馴し
暁さそふうくひすのこゑ　道悦

（陳・「中国衆」）